

一 結 言

吾が日本労働組合総聯合の来る可き一ヶ年の行動方針は内外の資本主義の精密なる分析と、従来の労働運動の厳正なる批判と清算の上に立脚して深らざる戦術と戦術を樹立するにある。

二 世界資本主義の現勢

世界大戦を轉期として、没落の資本主義は一般の危機の段階に入った。

歐洲を中心とする戦後数年に亘る直接的革命の危機の時期を経て、戦後の資本主義は相対的安定化の第二期に入った。戦争に依つて破壊された経済は漸次に恢復し生産は戦前の水準を突破して資本主義は表面再び発展への上向線を描くが如くに見えるが、その蔭には無限に増大される生産力と一定限度に制約される消費力との矛盾は、生産過剰の危機を刻々に孕みつゝあつた。

此の潜在し内蔵しつゝあつた生産過剰の矛盾は一九二九年の秋「永久繁榮を誇つた」アメリカ合衆國の取引所恐慌を導火線として爆發した。世界経済の半を占めるアメリカ恐慌は、既に恐慌の條件を備へて居た他の諸國を靡捲して、一九三〇年後半期に於けるフランスを最後として、世界資本主義は完全に恐慌の渦に捲